

第2回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時 令和6年7月23日（火）15時00分～16時30分
会 場 平塚市役所619会議室
出席委員 渡邊委員、小島委員、丸島委員、笹尾委員、國正委員、西郷委員
宮路委員、西田委員、飯田委員
欠席委員 比企委員、鈴木委員
事務局 石川社会教育部長、石塚社会教育課長、鳥居中央公民館長
木村課長代理、木村主査、吉水主事
傍聴者 なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

大変暑い中、会議に出席いただきまして、ありがとうございます。今回は今期の協議テーマについて決めていきたいと考えている。よろしくお願いします。

2. 議事

○議長

事務局から今年度の社会教育関係の情報提供をいただきたい。

○事務局

夏休みを中心に社会教育部各課では、別紙のとおり各種事業を予定している。文化ゾーンの施設の3館では、クイズ、スタンプラリーを3館コラボ事業として予定している。また、現在少年野球大会が開催されている。学童の部・ジュニアの部・中学生の部の総勢29チームが参加し、8月4日に平塚球場にて決勝戦が行われる予定。

7月28日には少年・少女水泳大会も開催予定である。

社会教育課では、県との共催事業として、湘南ベルマーレに業務委託した子どもの居場所づくりモデル創出事業（2か年事業）を、相模小学校区の子どもたちを対象に実施する予定。

また、社会教育施設の改修事業についてだが、今年度中に四之宮公民館が新しくなり、引っ越しをする予定である。今後は、金田公民館、松原公民館が改修を予定している。図書館では、南図書館が来年2月から1年間を目途に改修する予定である。中央図書館は、令和9・10年度に大規模な改修を予定している。

博物館・美術館においても今後、大規模な改修をする予定である。

図書館では、令和4年度から指定管理者制度を導入しており、今年度が中間年となる3

年目を迎える。専門の委員によるモニタリングを実施する予定である。指定管理者となってからは閉館時間が17時であったものが、18時に延びたことや、夏休み期間中に限るが月曜日も開館する取り組みが行われている状況である。

（１）神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

①総会（６月１０日）について

総会にて全ての議案が承認可決された旨、説明した。

②研修会（９月２日）について

事務局から９月２日（月）に開催予定の県社教連研修会の案内をした。

（２）協議テーマについて

○議長

今期の協議テーマについて、前回の会議では「地域の防災」、「社会教育施設の連携・活用」という内容が出てきた。社会教育施設については、平塚市は数も種類も多く、充実している。そこには、学芸員や図書館司書などの人的な資源もある状況で、それらの連携や活用について議論のテーマとしてもよいのではないかと考えている。前回会議から１か月半ほど経つが、（前回の意見だけでなく）協議テーマについて各委員から意見等を伺いたい。

○委員

今回配付された社会教育施設のイベントチラシは学校にも配付や掲示をしている。（子どもたちへの）事業の浸透の部分では、まだ課題があるのではと感じる。せっかくいい事業を企画しているのにもったいないと思う。

防災については、中学校が避難所になっているが、現在は中学生と連携したものができているわけではないので、自治会等と連携してできる機会があるといいと思う。

部活動の大会が行われているが、会場から遠い学校にとって、移動の負担が大きいことが課題だと感じている。

○委員

さまざまなイベントには、チラシ等を見て、知ってもらうことは多いが、参加してもらうことが大変だと感じている。「知る」部分の充実が必要で、さまざまな媒体を使ってどう情報を発信していくかが課題だと思う。

各施設が単独でイベントを実施していることが多いが、さまざまな団体がコラボしてイベントを実施していくと参加する層にも変化が出たり、興味を持ってもらえるのではと思う。

防災については、私が北陸に行った際、ある私設図書館で被災者の方々の交流が生まれ

ていることを知った。社会教育施設でさまざまな交流が生まれていくことは素晴らしいと感じた。

○委員

子どもの年代によって保護者の子どもに対する関心などに違いがあると思う。事業企画をするには（参加してもらいたい層は）何に関心があるかターゲットを絞っていく必要があるのでは。公民館の事業では、例えば小学生を対象にした場合に、小学校を通してチラシを配付することで親にまで事業が浸透していくことがある。事業の周知にひと手間かけることが大切ではないかと思う。

（子どもは未熟ということから）子どもの社会教育にばかり話がいくが、大人でも知らないことはたくさんあると思うし、生涯にわたり学習することは大切だと思う。

○委員

改めて市のホームページを見てみたが、各々の情報は分かるものの、イベントカレンダーも（各部署が連携して）ひと目で全体をまとめているものだとよいと感じた。

平塚市は社会教育施設が充実していて素晴らしいと感じている。社会教育施設がより充実するよう協議していくのがよいのではと思う。

○委員

社会教育のイベントの課題として、（情報が）届けたいところに届いているのか、それとも届いているけれども参加してもらえていないのか、課題としてどちらの方が強いのかと思った。届けたいところに届いていない場合は、広報の仕方を変えることやチラシの部数を増やすことなどを考えていかないといけないし、届いているけれども参加してもらえていない場合には、事業の内容見直しやターゲットが狙いと合致しているのかなどを考えていく必要があるのではないかと思う。（このような課題に対して）市としてどのような改善ができるのか等を話し合っていければと思う。

○委員

私は市の広報紙でイベント情報を知っていることでも、周りの保護者は知らないことがある。広報紙やチラシだけではなく、さまざまな広報の媒体を使い周知してもらえるとよいのではないか。

○副議長

私は平塚市の LINE 登録をしているが、毎日のようにたくさんの情報が届いている。（情報は届いているが）読み飛ばすことも多い。結局は自分が何に興味・関心を持っているかだと思う。「楽しい」と思ってもらえると人は集まってくると思う。知ってもらいたい情報

をいかに「楽しい」と思ってもらえるよう伝えるかが重要ではないかと感じている。

地域のお祭りには、多くの人が集まる。この多くの人が集まる場を利用して情報を発信することも大切になってくるのではないかと思う。

人の興味・関心や忙しさなどは人それぞれ違うので、いろいろな工夫が必要ではないかと思う。

○副議長

地域には、いろいろな人がいろいろな課題を持っていると思う。今解決したい人もいればそうでない人もいたり、課題の内容についてもどう動いていくかというものも多様であると思う。動きたいと思った時にサポートしたり、一緒に考えてあげるのが社会教育のあるべき姿ではないかと思う。

私は図書館情報学という分野が専門であるが、図書館員は人間志向的サービスを提供すると言われる。「ある情報が欲しい」と言われた時にただ単に情報を提供するだけではなく、（相手のことを考え）一緒に考えていくようなニュアンスがある。図書館司書や学芸員などが（市民等の）ニーズがある時に協働していくようなことを考えていけたらと思った。

○議長

文化振興懇話会という会議に出た時に、計画の見直しのために市民アンケートの情報提供があった。その中で図書館などの社会教育施設は回答の9割程度が利用しているが、「平塚市の魅力」としては社会教育施設の数字が低いという状況がある。施設が古い等の理由があるかもしれないし、情報発信を含めて課題なのかもしれない。

市では情報発信もさまざまな媒体を使って周知しているが結果として参加者が思ったより伸びない事業もある。前期の社会教育委員会議の報告書でも出ていたが、そもそも子どもに参加してもらいたい企画であれば、子どもの声を聴いて企画するという視点を持たないといけないのかもしれない。今回、図書館の事業の中にミニビブリオバトルがあるが、ビブリオバトルというのは自分が読んで面白かった本のプレゼンを5分間行い、次に質疑応答を受け、最後に参加者全員で読みたくなったチャンピオン本を決めるという内容のもの。このビブリオバトルは大学生が考案して始まったもので、各地で拡がりをみせている。このように子どもたちが楽しいと思えるものが企画となれば、参加する人が増えていくだろうと思う。

平塚市の情報発信について課題等が挙げられたが、最近の民間企業等の情報発信と比較してどうか。

○委員

平塚市はSNSを活用して上手に広報していると思う。現在企業では、紙媒体を使った広報をあまり使わない。インターネットやSNSを使った広報が主である。この分析がと

ても緻密でその情報を誰が見ているのか細かくデータを取っている。例えば、ネット広告では、クリックした人が何を購入したのか、どこで止まってしまったのかを見て分析している。市で同じことができるか分からないが、狙いを持って発信した情報を細かく細切れにしてどこで躓いているのか分析できると課題が見えてくると思う。

○議長

文化振興計画の市民アンケートでは、電子での回答も取り入れたが、紙のみで実施した時より回答率が低かったようである。電子回答自体が紙より煩雑だったかもしれないし、詳しく判らない部分もあるが、まだ電子回答に対応できない世代の割合が多いのかもしれないので、分析するには世代別に見てみないといけないかもしれない。

○委員

市でイベントのチラシを配付する時に、チラシを配付された人へイベントの簡単な紹介だけでなく、イベントの内容を紹介するような機会が仕組みとしてあるか。

○事務局

社会教育施設でのチラシの配架やポスターの掲示はされているが、なかなか紹介する機会はないかもしれない。各学校を通してのチラシが配付をされることもある。

○議長

学校ではどうか。

○委員

基本的に市からの配付物は配付するだけになっていると思う。

○委員

公民館の掲示や配架スペースにはたくさんの情報があるが、対象別に広報できていないこともあり、必要な人に届いているのか疑問に感じることがある。(掲載スペースは限られているが) 公民館だよりも市のお知らせを抜粋して掲載してもよいのではと考えている。

○委員

小さい子を持つ若い親にあるチラシを見せて、このイベントに行きたいと思うか聞いたことがある。行きたいと思うが、忙しくて行くことができない。YouTubeなどにアップしてくれていれば、隙間時間に見られると言っていた。動画配信のいいところがあるので、大変かと思うが取り入れてもらえるといいかもしれない。

○議長

私が活動している大野地区の教育力ネットワークでは、中学生ボランティア派遣事業というものを実施している。地域の団体が中学校にボランティア募集の申請をし、中学校の先生がチラシを作って募集をかけるが参加者数としてはそれほど多くない。

ただ、金目地区の教育力ネットでは、中学校の全校集会の時に時間をもらい、直接事業の説明をして参加をお願いしたところ、その時は50名近くの中学生に協力してもらうことができたようである。

チラシを配付するだけでなく、直接、事業の説明をして魅力を伝えることで思いが子どもたちに伝わるんだろうと思う。

○委員

直接説明してもらったり、エピソードを聞いたりすることで印象に残るんだろうと思う。

○議長

この手法はとても効果的ではあるが、なかなか多くの学校で広く展開することは難しいだろう。

○副議長

3館コラボ事業でスタンプラリーをやっているようだが、子どもたちに浸透していないかもしれない。スタンプラリーは子どもたちが興味を持ってくれる内容だと思うのもったいないと思う。スタンプと併せて景品などがあるとよいが…

中学生は図書館や博物館等に行けば自由研究のヒントになるようなこともあり、是非足を運んでもらいたいと思うが、実際行ってもらうことがなかなか難しい。

○事務局

社会教育施設では、さまざまな事業を展開しているが、今日だけでも広報についての課題が出されているので、今期の報告書の完成を待たず、取り組んでいけたらと思う。

○副議長

例えば公民館事業の参加者を募集する時に学校に行って、事業の紹介をすることはできないだろうか。

○委員

市内の全体の公民館については判らないが、私の地区の公民館ではなかなかできていない。

○副議長

公民館の主事さんの顔を子どもたちに知ってもらうだけでもメリットはあると思う。

今は大型モニターが普通教室に設置されているので、集まらなくてもできるかもしれない。

○委員

（学校に説明する場を作ってもらう必要はあるが）公民館主事が学校に行って説明するのはいいことだと思う。

○委員

学校の全校集会の場にもっと地域の方に来ていただき、情報を発信してもらってもよいかもしれないと思っている。

ビブリオバトルの話があったが、子どもたちはバトルとかコンクールなどには興味を持つだろうし、保護者も来場してくれるのではないか。中学校では、2年生の総合学習の時間に平塚の魅力をアピールすることを授業でやっている。（授業とは別に）もっと社会教育施設でも子どもたちに発表の場を作ったりすれば、人が集まってくれるかもしれない。

○議長

色々と意見が出てきたが、今期のテーマは、社会教育施設の（社会教育）資源の有効活用や課題について議論していくような方向でよいか。

→異論なし。

社会教育施設には図書館・博物館・美術館のほかにも公民館やスポーツ施設も含まれる。すべての施設について議論するのは時間的に厳しいので、まずは図書館・博物館・美術館を取り上げて協議していけるといいのではと思う。

また、これらの施設について、詳しく知らない委員も多いと思う。

今後、それぞれの施設の職員からレクチャーを受けて一緒に学んでいき、協議していけるといいと思う。

（３）次回の会議予定の確認

第３回会議日程 令和６年１０月２２日（火）１５時から（会場は未定）

会場は図書館・博物館・美術館の中で調整して決定する。

３．その他

事務局から今後の通知等をメールでの送付に対応可能かどうか確認した。

以 上